

ジェンダー平等と社会的公正の ための教育

ファシリテーター

廣野良吉

成蹊大学名誉教授／DESDフォーラム

問題の所在

私たちはまだ
ジェンダー平等と社会的公正
が実現した世界を知らない

- ジェンダー不平等・社会的不公正が続いている
 - 日本は貧富の格差の大きい国
 - 貧困層は誰か
 - ワークングプア・非正規労働者－女性が多い
 - 高齢者－女性が多い
 - 経済・環境・社会的貧困
- 依然幻想が蔓延している
 - 経済に関する幻想
 - 性別役割分業の幻想
- 問題を感じる力、発言する力が弱い

女性の意思決定プロセスへの参加の 遅れ：人間開発報告2013

1. 国会議員及び閣僚
2. 地方議会
3. 地方自治体首長
4. 行政
5. 企業
6. その他

日本の貧困率は高い

日本の貧困率—女性の方が高い

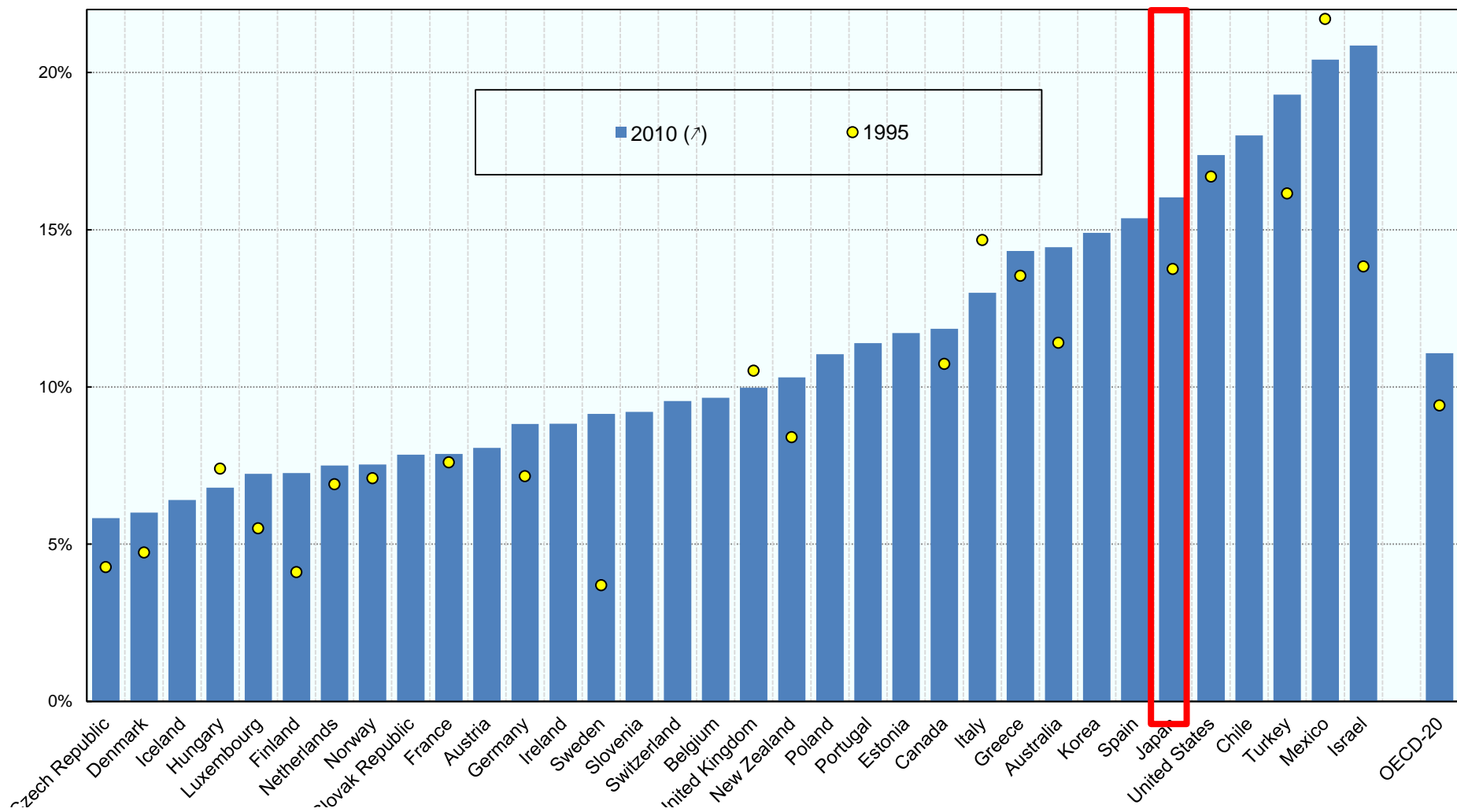
母子世帯の貧困率が高い

女性労働者の過半数が非正規雇用

教育(学歴)別年齢階級別平均年収

日本の貧困率は高い

相対的貧困率, 1995 and 2010



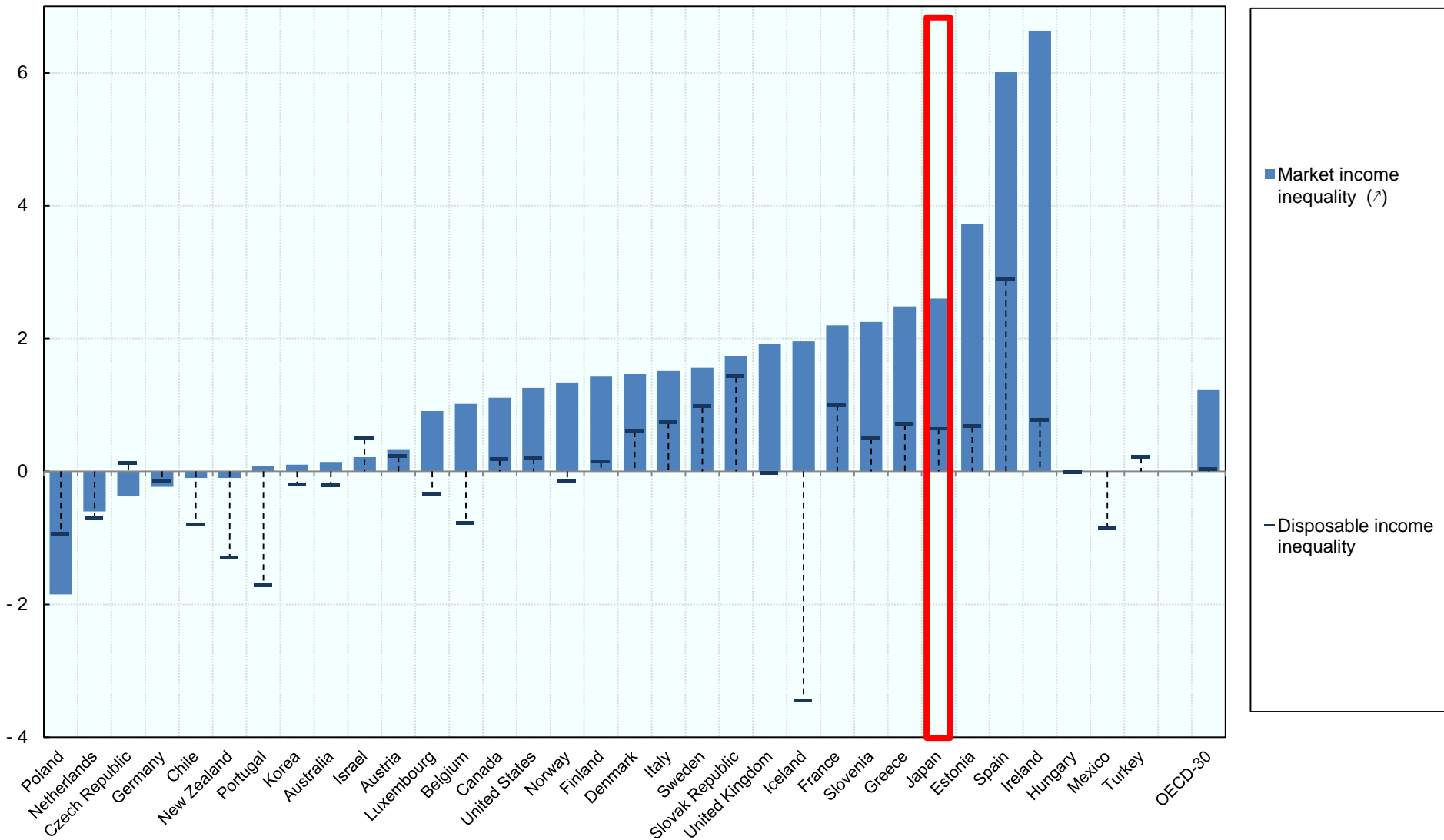
母子世帯の貧困率が高い

世帯構成と貧困率

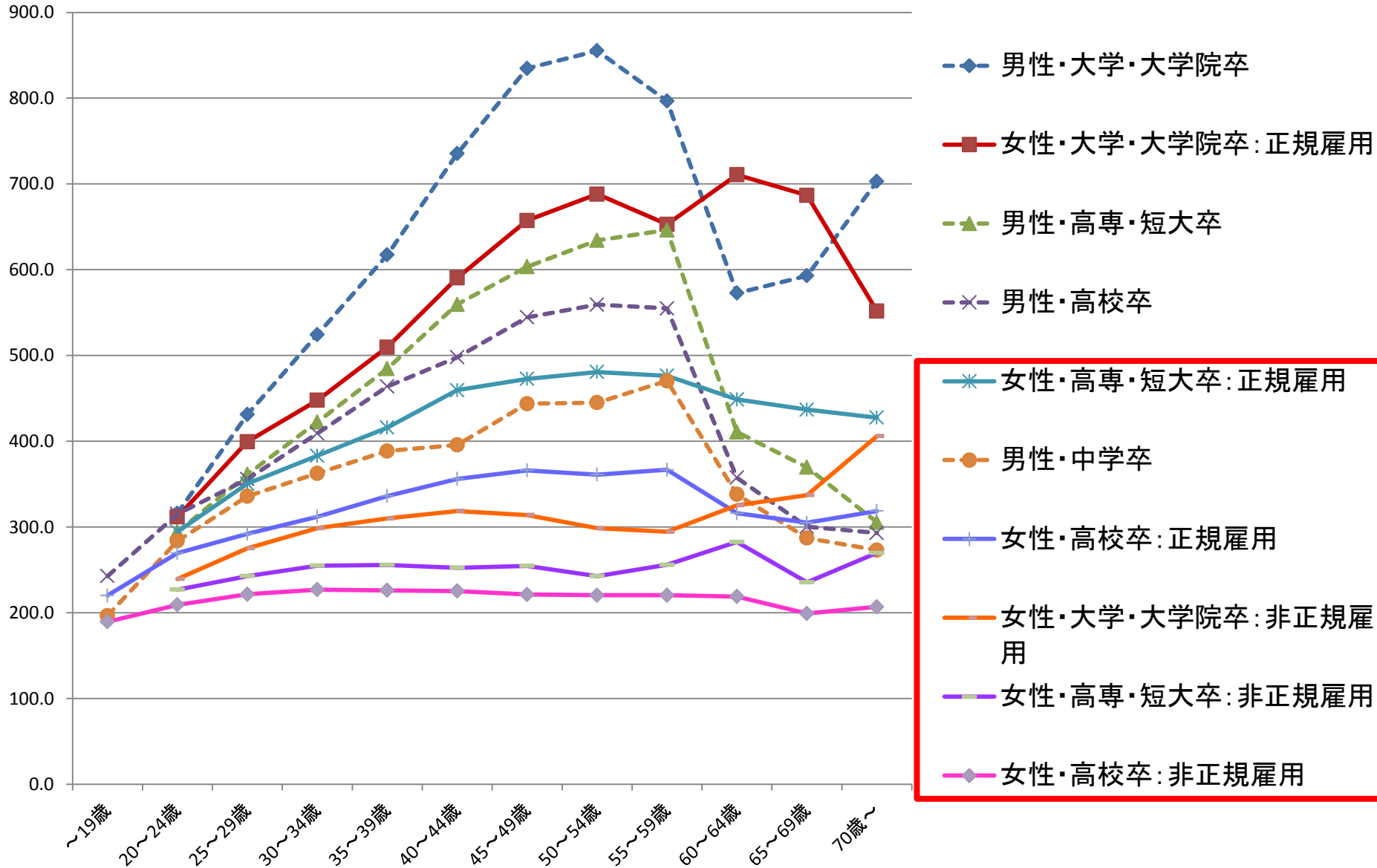
	人口構成比	貧困率	貧困率貧困層構成比
両親と子のみ世帯	63.2%	11.0%	50.0%
三世帯世帯	28.5%	11.0%	23.0%
母子世帯	4.1%	66.0%	19.0%
父子世帯	0.6%	19.0%	1.0%
高齢者世帯	0.1%	NA	NA
その他世帯	3.4%	29.0%	7.0%

所得格差が拡大している

市場所得と可処分所得 2007・2010



教育(学歴)別年齢階級別平均年収 (男女別, 平成24年)



現在のジェンダー平等政策

1. 国・地方自治体・企業・その他社会組織の政策が不十分

2. その基本的要因

- ①日本および途上国の伝統的社会構造,不完全な市民社会。
- ②ジェンダー平等意識を持たない指導者の存在。
- ③ジェンダー平等を実現するためのメカニズムの不在。

ジェンダー平等に対する最近の変化

1. 女性の高等教育化
2. 女性の経済活動への進出
3. 少子高齢化
4. NGOの発言力の向上
5. 国際社会の圧力, ILO・UNDP・UNICEF・UNESCO、世界銀行等

「尊厳ある人生をすべての人に： MDGs達成の加速化とポスト2015年開発ア ジェンダの推進にむけて」

ポスト2015(MDGs)開発目標の議論に向けての国連事務総長報告(2013年7月発表)

排除と不平等への取り組み

誰も取り残されることなく、すべての人びとが前進するためには、機会の平等が必要。これは**包摂的経済**を進めること。それは、男女ともに**尊厳をもって暮らせる雇用、法的保証、資金、インフラ、社会保護へのアクセス、すべての人が国や地方の統治に参画できる社会**とすること。

「尊厳ある人生をすべての人に： MDGs達成の加速化とポスト2015年開発ア ジェンダの推進にむけて」

ワークライフバランス

労働時間の短縮

女性と少女のエンパワーメント

政治・経済・公的分野における女性の参画、

女性に対する暴力、女性・少女に対する搾取の根絶、
性的およびリプロダクティブ・ヘルス&リプロダクティブ・
ライツ、土地所有、同一労働同一賃金、決定における
同等な発言などが保障されるべきである。

逃してはいけないチャンス ポスト2015 (MDGs) 開発目標

世界の国々はMDGs(ミレニアム開発目標)
2000年に2015年までの開発目標を決めた。
現在、2015年以後の開発目標を議論している。

「尊厳ある人生をすべての人に： MDGs達成の加速化とポスト2015年開発ア ジェンダの推進にむけて」

質の高い教育と生涯学習の提供

若い人が、就学前から高等教育まで、正規および非正規の教育を通じて、ライフスキルや職業訓練を含む教育と学びができるようにすべきである。



狭い

ジェンダー平等と社会的公正の実 現のための教育強化にむけて —何をすべきか—

- 社会的な不公正を感じる力
- 正義を主張する力
- 知識

← ESDを通じてできること

ESDへの期待

1. ジェンダー平等というクロスカッティング視点をすべてのESDへ導入。
2. ジェンダー平等意識が最も遅れている層への啓発。
3. 既存のESD政策へ一般市民社会の視点の導入。
4. 国際協力へのESD視点の導入。